

大人が楽しむ科学教室2026

千葉市 科学フェスタ
これからの私たち
2026

申込方法

申込フォーム

2次元コードまたは下記URLからアクセスし、講座詳細ページから申込フォームへお進みください。

<https://www.kagakukanq.com/otonagatanoshimu>

※フォーム送信後、受付完了のメールがGoogleから自動配信されます。参加確定メールではありません。



往復はがき

※はがき1枚につき1講座1名のみご応募ください。

往信面裏側に応募講座名・申込者氏名・住所・電話番号をご記入ください。

宛先 ▶▶ 〒260-0013 千葉市中央区中央4-5-1 きぼーる7階 千葉市科学館「大人が楽しむ科学教室」係

※応募者多数の場合は抽選となります。申込フォームでご応募の方は締切後に当選者のみメールでお知らせします。はがきでご応募の方は返信はがきをご確認ください。

※同一講座に複数回お申込されても1回のお申込として扱います。(申込フォーム・はがき共通)

※講座開始後のご入場や途中退出はできません。時間に余裕をもってお越しください。

※当日残席がある場合は、開始15分前より会場にて受付を行います(先着順)。

会場 10階 探究実験室

対象 高校生以上(テーマに関心のある小中学生の参加可)

定員 各回30名 ※12月26日(土)のみ異なる

料金 要常設展示入館料(裏面参照)

申込締切 12月講座…11月10日(火) 必着

1月講座…12月10日(木) 必着

2026年12月のプログラム

身近な科学シリーズ

12/13日 見えない毒を追う —最先端の法中毒学—

13:30~15:00 講師 永澤 明佳(ながさわ さやか) | 千葉大学大学院 薬学研究院 法中毒学研究室 講師



毒物や薬物は目に見えません。しかし、その痕跡を科学的に分析することで、事件や事故、突然死の原因を明らかにできる場合があります。本講座では、法中毒学とはどのような学問なのかを紹介するとともに、最先端の分析機器を用いた毒物・薬物の検出や、実際の事例を交えながら、科学がどのように真実を解き明かしていくのかを分かりやすく解説します。身近な話題も交えながら、「見えない毒」を追う法中毒学の世界と、その社会的役割について紹介します。

健康の科学シリーズ

12/19日 生きものから学ぶヒトの病気と治療へのヒント —小さな魚ゼブラフィッシュで探る老化と病気のメカニズム解明—

13:30~15:00 講師 伊藤 素行(いとう もとゆき) | 千葉大学大学院 薬学研究院 生化学研究室 教授



「人はなぜ歳をとり、脳や体に病気が起きるのか？」この大きな問いに、実は「ゼブラフィッシュ」という小さな魚を使った研究アプローチが活用されています。魚とヒトは全く同じではありません。ですが、共通点や「あえて違う」部分を読み解くことが、ヒトの病気を克服するための新しいアイデアに繋がります。本講座では、顕微鏡で捉えた細胞の映像や行動解析を交え、脳梗塞や老化、病気のメカニズムを分かりやすく解説します。小さな魚から広がる、病気の仕組み解明の世界を覗いてみませんか？

メンデル講演会シリーズ

※この講演会は、メンデル協会との共催です。

12/20日 放射線被ばくによる染色体異常

13:30~15:00 講師 数藤 由美子(すうとう ゆみこ) | 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所 計測・線量評価部 グループリーダー



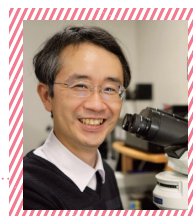
ヒトの二倍体細胞のゲノムは、常染色体22対、性染色体1対からなります。ヒト染色体の同定・検出方法の歴史、数的・形態的特徴や、染色体異常に関わる疾患の例をお話しします。さらに、変異原の中から特に電離放射線を取り上げ、放射線の人体影響の歴史、放射線によって生じる染色体異常と被ばく線量との関係、線量推定方法、被ばく事故の対応例と準備態勢についてお話しします。

メンデル講演会シリーズ

※この講演会は、メンデル協会との共催です。

12/26日 光合成できる動物細胞を創る

13:30~15:00 講師 松永 幸大(まつなが さちひろ) | 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 教授



太古の昔、真核細胞が光合成細菌や藻類を消化せずに受け入れ、共生することによって植物が誕生しました。そのメカニズムを知るために、藻類を動物細胞と融合したり、動物細胞に葉緑体を導入したりしました。取り込まれた葉緑体や、動物と藻類の両方のゲノムを持つハイブリッド細胞の挙動を紹介し、人工的に光合成できる動物細胞を創る研究の最前線をお伝えします。

※本講座は6月27日に予定していた回の振替となります。前回当選者の他、若干名を追加募集します。前回当選者には別途ご連絡します。

身近な科学シリーズ

1/10 植物の栄養学と私たちの健康

13:30~15:00 講師 浦口 晋平 (うらぐち しんぺい) | 千葉大学大学院 園芸学研究院 植物栄養学研究室 准教授



「植物にとっての栄養とは？」と聞かれて、みなさんは何をイメージするでしょうか？植物の成長には、17 種類の必須元素が必要です。植物が必要な元素を取り込み、体をつくる仕組みを研究するのが「植物栄養学」です。その研究は、私たちの健康や地球温暖化対策にも関わっています。本講座では、植物の栄養の基本から、私たちの食料・栄養源としての植物、植物と温暖化の関係、カドミウムの少ない安全な食料生産まで、「植物栄養学」を身近に感じていただける話題を紹介します。

身近な科学シリーズ

1/23 気候変動がもたらす私たちとハナバチたちを取りまく世界の変化

13:30~15:00 講師 横井 智之 (よこい ともゆき) | 筑波大学大学院 生命環境系 保全生態学研究室 准教授



近年の地球規模での気候変動は、私たち人間の暮らしにも大きな影響をもたらしています。その影響は、身の回りに生息している昆虫たちにもおよんでいます。本講座では、ミツバチを代表とするハナバチの仲間の多様性や行動が、自然生態系だけでなく、私たち人間の生活にも深く関係していることを紹介しつつ、気候変動によってこの関係に何が起るのか、起っているのかを、わかりやすくお話しします。

身近な科学シリーズ

1/30 森林災害地での植生の時系列解析

10:30~12:00 講師 加藤 顕 (かとう あきら) | 千葉大学大学院 園芸学研究院
ランドスケープ学コース / 先端園芸工学 准教授



気候変動により、世界中で極端な気象が生じるようになり、日本でも森林火災や水害が、より頻繁に生じています。私たちの身近なところで、自然の脅威を感じるようになりました。こうした災害に対し、森林がどのようになってしまったのか？どのように対処したら良いか？と感じる人が多くなってきています。本講座では森林火災を自然現象の一つであると捉え、森林生態系にとって災害が必要であること、さらには災害にはサイクルがあり、そのサイクルの上で考えなければならないなど、森林災害に関わる現在の問題を最新知識や技術で解明する研究をお話しします。

身近な科学シリーズ

1/31 深海のお宝は誰のもの？ 海洋鉱物資源の開発に向けた環境影響評価

13:30~15:00 講師 山岡 香子 (やまおか きょうこ) | 国立研究開発法人産業技術総合研究所
地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ 主任研究員



コバルトリッチクラストやマンガン団塊などの海洋鉱物資源は、将来の金属資源として注目されています。日本は 1970 年代からこれら資源の探査に取り組み、公海に国際鉱区を取得して調査研究を継続してきました。近年は、排他的経済水域 (EEZ) 内での資源開発に向けた動きも活発化していますが、開発を進めるにあたっては、海洋の生物多様性や環境への影響を出来る限り抑えることが重要です。本講座では、海洋鉱物資源の開発と環境保全の両立を目指した深海環境調査の取り組みについて紹介します。